

研究分野のキーワード：中国哲学、中国近代思想

研究紹介

現在中国と日本の間は様々な問題をかかえています。例えば尖閣列島の所屬問題、歴史認識の問題等々。そのためか新聞報道によると中国に好感を持っていない人が多数いるということです。しかし、それにもかかわらず、経済的には年々緊密化し日中の貿易額はすでに日米のそれを上回っています。それに伴い、人の往来も頻繁になり、町で中国語を話す人々を見かけるのも日常的になってきました。私は日本人の中国人に対する感情の底にあるのは「よくわからない人たち」という印象ではないかと考えています。

では中国人を知るにはどうしたらよいのか。それにはアメリカ人による中国研究の経緯が参考になります。社会主義が隆盛で東西対立が厳しかった頃、アメリカは社会主義中国が何を考えているのか知るために様々なアプローチを行いました。その結果、現在から次第に中国史を遡って行ったのです。つまり伝統中国を知ることがどうしても必要だということに気がついたのです。伝統中国と言っても必ずしも孔子・孟子の時代まで遡らなければならないというものでもありません。例えば今日中国を中心に起こっている領土問題でも、明清時代に一般的であった朝貢貿易にともなうアジアの国際関係を基礎においてみると、中国側がこの時代（つまりアヘン戦争を皮切りにする列強の中国侵略以前の時代）の世界観に固執しているということがわかります。中国共産党や政府職員の腐敗問題でも、明清時代の官僚達の生態を描いた小説を読むと、なるほどと納得のいく点が多々あります。

私が研究しているのは、そうした伝統中国と現代中国との間にある近代中国（主にアヘン戦争から中華人民共和国成立まで）です。そこにたって両者をとともに見据えて、伝統中国がどのように現代中国に変容したのかを考えております。この時代は西洋に関する知識を主に日本経由で摂取し、翻訳語のほとんどが日本製であると言っても過言ではありません。例えば「科学」「哲学」「経済」「社会」「恋愛」「民族」など学術や文化における様々な分野の用語が日本製です。また中国人が「私たち中国人は一つにまとまらなければならない」と考えるようになった最大の契機は日本の侵略であります。中国を知るにはこの時代がもっとも重要だと私は考えています。